

スマホは、電話やメールだけでなく、ネット検索やSNS、健康管理、代金の支払いなど生活を豊かにする多機能な道具で、今や生活に欠かせない



名古屋北労働基準監督署長 浅井 文彦

必需品となりつつあります。

そのような便利な道具ではありますが、「ながらスマホ」の危険性について、大きく取り上げら

歩きスマホはやめましょう

— 迷惑かつ危険です

れたのは、今から10年くらい前に「ポケモンGO」をしながらの自動車運転が死亡事故に至ったこと」だったと記憶しています。

その後、「ながら運転」は厳罰化され、携帯端末使用が原因の交通事故はいったん減少したものの、その抑止効果は、近年薄れてきているそうです。直近では、今年3月に新名神高速道路で大型トラックが前方の渋滞車両の列に追突し6人が死亡する事故も発生しています。

さて、今回テーマとしているのは、ながら運転ではなく歩きスマホについてです。通勤途上や日常生活において感じた危険な場面や苛立ち（ストレス）を書き出してみました。

通勤では、地下鉄を利用していますが、
①改札を通るときにスマホを見ている人



②ホームへ向かう階段（上り・下り）でスマホを見ている人

③ホームでの移動においてスマホを見ている人
④車両への乗車または車両からの降車の際にスマホを見ている人
等、多くの人が歩きスマホしていますが、通勤

時の混み合う時間帯にこの人たちの後ろをゆつくり歩かなければならない場面、あるいはこの人たちを避けながら先へ進まなければならぬ場面では、とても苛立ちを感じますし、階段で転倒したらどうなるでしょう。

また、乗り物ではなく、

徒歩での移動において、ゆつくり歩いている人を追い越そうと右側によけるとその人も右側に、左側にいくとその人も左側にと、進路を

ふさがれるような経験をされたことが皆さんもあるのではないのでしょうか。追い抜くときに確認してみるとスマホを見ているケースが多いです（もちろん何も見ていなくても左右に振れながら歩いている人はいます）。車の運転中に遭遇する

歩きスマホでは、横断歩道をとてもゆつくり渡る人（中には赤信号に変わってもゆつくり歩く人もいます）、横断歩道の直前でスマホに夢中になって動かない人（渡るのか、渡らないのか判断できない）など、運転者の心を苛立たせる人たちが少なからずいます。

このように歩きスマホに関する問題は多数ありますが、自動車運転・自転車運転のように、全国一律の罰則付きの法律は整備されていません。ただし、自治体によっては、マナー違反レベル（罰則なし）の条例を定めているところもあるようです。

歩きスマホをして、自身が被害者になる可能性があるので、反対に周囲に迷惑をかけている可能性があることを認識して、適切な使用を心がけてほしいと思います。

イラスト・木村武司